

厚生科学研究で把握した健康危険情報の通報（要旨）

愛知県知多半島の犬におけるエキノコックス（多包条虫）感染の追加事例について

1. 通報者等

- (1) 通報年月日 平成 30 年 3 月 28 日
- (2) 主任研究者 宮崎義継
- (3) 研究課題名 国内の病原体サーベイランスに資する機能的なラボネットワークの強化に関する研究
- (4) 所属施設名 国立感染症研究所真菌部

2. 健康危険情報

犬のエキノコックス（多包条虫）症の 2014 年の愛知県における発生届出及びその後の日本医療研究開発機構（AMED）研究による糞便の調査結果を受け、厚生労働科学研究により、愛知県衛生研究所における犬等のエキノコックス調査に遺伝子検査（PCR 法）を導入し、検査体制の強化を図ってきた。今年度の調査研究において、2015 年 10 月～2018 年 3 月の期間中に同県動物保護管理センター知多支所管内で捕獲又は保護された犬等から採取し、冷凍保存されていた 77 検体（犬 70、キツネ 6、タヌキ 1）について PCR 法によるエキノコックス特異的 DNA の検出を試みたところ、3 例（阿久比町、知多市及び南知多町で捕獲された犬由来の検体各 1 例）から増幅産物が得られ、ダイレクトシーケンスの結果、塩基配列は多包条虫のものと一致した。

3. 健康危険情報の評価

陽性個体が捕獲された 3 市町のうち、阿久比町については、2014 年 3 月に多包条虫感染犬が捕獲されており、その後 AMED 研究により実施された糞便の調査においても同町及び隣接市（常滑市・半田市）にて採取された犬由来の糞便から陽性例が検出されている。阿久比町及び常滑市において複数の終宿主での感染例が確認されたことから、阿久比町を中心とした地域において多包条虫が定着していると考えられる。

また、知多市及び南知多町については、これまで陽性例は確認されておらず、今回の検討で初めて陽性例が検出された。知多市は隣接する阿久比町及び常滑市との関連が考えられる。南知多町は阿久比町・常滑市・半田市・知多市とは地理的に接しておらず、直ちに検出結果を関連付けることはできない。

いずれにせよイヌ科動物はヒトへの感染源となる危険性があることから、阿久比町・常滑市・半田市・知多市・南知多町とこれらの地域の中間に位置する 2 町（武豊町・美浜町）においては、エキノコックスの流行地に準じた対策を講じることが望ましい。ま

参考資料 7

た、これらに隣接する市町を含め、野生イヌ科動物（ノイヌ・キツネ・タヌキ）に対して監視を強化するとともに、飼育犬の放し飼いや野生イヌ科動物との不用意な接触を生ずる行為（餌付けや生ごみ管理不徹底による生活環境への動物の誘引、防護マスク等を着用せず傷病保護個体あるいは交通事故死体を取り扱う等）を避けるといった注意喚起をする必要があることから、健康危険情報として報告をするものである。